

教育目標	
心豊かに 心身ともにたくましく 主体的に遊びや生活を創造する子どもの育成を目指して	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 今年度は本園の強みである自然環境を生かした教育の中で子どもが興味関心をもって主体的に環境にかかわり、夢中になって取り組む中で日々の生活を充実させていくよう工夫してきた。自然環境に加え、発達段階に応じた意図的な環境を設定することで、各学年が互いに刺激を受けそれぞれの生活を広げたり深めたりしていくことにつながった。岩倉自然学習ボランティアの先生にもご協力、ご指導いただき、教員も自然についての見識を深めることができた。 また、架け橋プログラムについても実践協力校である小学校との連携はより密になり、地域の幼児教育施設とも関係作りが一步進み、昨年度以上に発展的に取り組むことができた。 架け橋プログラム出の地域への幼児教育の積極的発信をさらにしていく必要がある。ICTをより活用し、教育に生かしていくことも課題である。
	学校関係者による意見・支援策 ・式典の他、運動会、作品展、生活発表会等見せていただいたが、子どもが伸び伸びと過ごしている姿が印象に残った。
学校関係者評価	

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和7年10月17日	
最終評価	令和8年3月10日	学校運営協議会

(1) 幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組 ・本園の強みである豊かな自然環境を今一度見直し、教育活動に生かし、豊かな感性や、好奇心、探求心、人とつながる力の育成を目指した教師の援助や環境構成について考える。 ・未就園児3歳児から小学校就学までを見通し、発達にふさわしい環境や援助を考える。 ・実践を振り返り、特に本園の豊かな自然を生かした環境や教材について見直し、子どもが主体的に関わりたい、やってみたいと思えるように研究を深める。
(取組結果を検証する) 各種指標

- ・日々の子どもの姿についての情報共有、記録、事例研究による子どもの変容、週案の反省・評価、教育課程の見直し
- ・アンケート項目「子どもは、自分でしたい遊びを見つけて楽しんでいる」「子どもは、園内の自然環境を遊びに取り入れて楽しんでいる」「子どもは友達と関わることを楽しんでいる」など

中間評価

各種指標結果

- ・ 毎週3学年で保育の振り返りをするとともに、週案の評価と合わせて教育環境や教師お援助について話し合った。
- ・ 園内研究における研究保育、事例研修により、指導助言をいただき保育の質を高めることができた。
- ・ アンケート結果「子どもは喜んで幼稚園に通っている」について「そう思う」「大体そう思う」を合わせて95%、「子どもは自分の思いを素直に出そうとしている」について「そう思う」「大体そう思う」で100%、「子どもは友達と関わりながら一緒に遊ぶことを楽しんでいる」について「そう思う」「大体そう思う」を合わせて95%、「幼稚園は子どもがやりたい遊びが十分にできるように環境を整えたり援助をしたりしている」について「そう思う」「大体そう思う」を合わせて100%、「幼稚園は一人一人の良いところを認めて援助している」について「そう思う」「大体そう思う」を合わせて97%、「幼稚園は自然を大切にして、保育に生かしている」について「そう思う」「大体そう思う」を合わせて100%、「子どもは自然と関わりながら遊ぶことが好きである」について「そう思う」「大体そう思う」を合わせて92%、「保護者も自然環境には興味関心がある」について「そう思う」「大体そう思う」を合わせて92%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・ アンケート結果はいずれも高い数値を示していた。
- ・ 園内研究ではよりテーマに迫った分析をする必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ 学年に応じた発達段階や個々の発達にも着目し、実態を見取り、ねらいや子どもの育ちにふさわしい経験が積み重ねていけるよう環境構成や援助を見直していく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・ アンケート項目
- ・ 3学年での保育の振り返り ・ 週案の評価 等

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・ 今年度は自然に焦点を当てた研究と聞いている。岩倉の地域の自然を存分に生かしてほしい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

- ・ ミニ園研の時間の確保が難しい時期があったが、環境や行事の取り組む際の各学年の目当てや環境設定について話し合ってきた。
- ・ アンケート結果「子どもは喜んで幼稚園に通っている」について「そう思う」「大体そう思う」を

合わせて97.4%、「子どもは自分の思いを素直に出そうとしている」について「そう思う」「大体そう思う」で97.4%、「子どもは友達と関わりながら一緒に遊ぶことを楽しんでいる」について「そう思う」「大体そう思う」を合わせて97.4%、「幼稚園は子どもがやりたい遊びが十分にできるように環境を整えたり援助をしたりしている」について「そう思う」「大体そう思う」を合わせて100%、「幼稚園は一人一人の良いところを認めて援助している」について「そう思う」「大体そう思う」を合わせて100%、「幼稚園は自然を大切にして、保育に生かしている」について「そう思う」「大体そう思う」を合わせて100%、「子どもは自然と関わりながら遊ぶことが好きである」について「そう思う」「大体そう思う」を合わせて97.4%、「保護者も自然環境には興味関心がある」について「そう思う」「大体そう思う」を合わせて89.8%

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・アンケート結果は高い数値を示している。子どもが日々の園生活を充実させ楽しんでいること、保護者もそのようにとらえていることがうかがえる。
- ・今年度も家庭教育講座で保護者向けに岩倉の自然についての講演とワークショップを開催したこともあり保護者の自然への関心も比較的高い。

分析を踏まえた取組の改善

- ・今後も教職員間でしっかり連携しながら個々の発達や学年に応じた子どもの育ちを踏まえた環境設定や活動を随時見直していきたい。親子で自然に関心を高めていけるよう引き続き工夫やアプローチをしていきたい。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・いつも子ども達はのびのびと過ごしているように見受けられる。自然が豊かな環境を引き続き生かして行ってほしい。

(2) 幼保小の架け橋プログラムの推進に関して

具体的な取組

- ・年度当初より、小学校とともに架け橋期カリキュラムを策定し、検証していく。
- ・幼保小架け橋ミーティングで、年間計画を策定し、子どもの交流活動や教員の研修を行う。
- ・子どもの交流においては、互いの学習や遊びを尊重し、活動内容や場の工夫を行う。その際、互いのめあてを共有し、子どもの学びや育ちを保障する交流活動になるよう配慮する。
- ・就学前、就学後の綿密な情報共有を行う。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・ 架け橋プログラムで幼保小での交流や合同研修、参観の回数など
- ・ 架け橋期のカリキュラムの作成についての進捗状況
- ・ 近隣の小学校へ発信した幼稚園通信での反応
- ・ 地域の他の幼児教育施設との横のつながりの実践
- ・ 読書ノート「親子で絵本！」の活用度を定期的に点検、把握、改善

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼保小の合同打合せ、合同研修2回 子どもの交流（幼小）2回、相互参観2回 ・ 4月当初よりカリキュラムの作成のため幼稚園のデータを提供 ・ 幼稚園通信発行
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度当初より幼小だけでなく地域の保育園・こども園と共に打ち合わせし、年間計画を策定できたことが大きな進歩であった。 ・ 幼小交流について、互いの“ねらい、めあて”について抑えながら事前、事後の話し合いで共有できればと思う。 ・ 小学校を核とした連携は進んでいるが、幼児教育施設間で架け橋プログラムの理念の共通理解を図るためには、地域の幼児教育施設同士の連携が今後必要になってくると思われる。 ・ 読書ノートの活用については82%が活用できていると回答、例年と比較すると高い数値である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼小の交流について、互いの教育での“ねらい”を知り取り組んでいく。 ・ 幼保小で交流や合同研修等があったことを幼児教育施設間でも共有する機会がもてるという。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 架け橋プログラムで幼保小での交流や合同研修、参観の回数など ・ 近隣の小学校へ発信した幼稚園通信での反応 ・ 地域の他の幼児教育施設との横のつながりの実践 ・ 読書ノート「親子で絵本！」の活用度を定期的に点検、把握、改善
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大切な取り組みであるのでしっかりと進めてほしい。

最終評価

	<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の参観、2回の給食体験、子どもの交流（秋見つけ、もうすぐ2年生等）、振り返りの会議、年度当初に作成したカリキュラムの見直し、更新など発展的に取り組むことができた。 ・ 幼稚園通信の発行回数が少なかった。 ・ 小学校を核として、他の幼児教育施設とのつながりがもてた。 ・ 読書ノートの活用については74%が活用できていると回答、例年と比較すると高い数値であるが、前期より減っている。例年より熱心にトリックまれ100冊の人数は増加している。
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校を核とし、リードの元、かなり発展的に取り組めた。 ・ 次年度も今年度の取組を充実させていく必要がある。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園通信地域版の発信を増やしていきたい。 ・ 幼児教育施設の横の連携も発展させていける糸口を探りたい。

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・架け橋プログラムは大切な取組である。幼保小の連携が次年度以降も、より発展していくことを願う。
---------	--

(3) 預かり保育に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任と預かり保育担当教員が子どもの心身の状態について引継ぎ、緊密に連携をとる。 ・時期や季節に応じた玩具や遊びの環境を整え、子どもが安心して、ゆったりとした気持ちで充実して過ごすことができるようにする。 ・未就園児3歳児クラスの子どもについて、安心感が持てるよう、子育て支援、預かり保育両担当の連携を密に図る。 ・早朝及び未就園児3歳児の利用制度について地域への周知を図る。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育参加人数 ・預かり保育の中での子どもの姿や教師のかかわり。 ・アンケート項目「子どもは預かり保育に喜んで参加している」「子どもは預かり保育の遊びを楽しんでいる」「預かり保育は保護者にとって有効である」など

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育担当教員と担任との連携がしっかりとなされている。特に3歳児については、生活習慣面でも個別の対応が必要になってくる。 ・「子どもは預かり保育に喜んで参加している」については「そう思う」「大体そう思う」を合わせて82%、「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせると10%、「わからない」8%、「早朝および保育後の預かり保育は、保護者にとっても有用である」については「そう思う」「大体そう思う」を合わせて100%、数値としては高い値を示している。
自己評価	<p>分析(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員同士の連携が図れているため、教育時間の活動を鑑み、預かり保育の活動内容を検討したりも教育時間との関連性をもたせたりしてきている。 ・今後も子どもの集中力や体力を考えつつ充実したものとなるようにして行きたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当教員と担任との連携を密に図る ・子どもの体力や集中力を考えて教育内容を充実させていきたい。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育参加人数 ・預かり保育の中での子どもの姿や教師のかかわり。 ・アンケート項目「子どもは預かり保育に喜んで参加している」「子どもは預かり保育の遊びを楽しんでいる」「預かり保育は保護者にとって有効である」など

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労している保護者の増加により預かり保育のニーズが高まっているのを感じる。昔と実態が変わってきているのだと思う。
---------	--

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加人数は増加してきている。 ・預かり保育では、教育時間での生活と関連した活動や歌が取り入れられている。 ・「子どもは預かり保育に喜んで参加している」については「そう思う」「大体そう思う」を合わせて87%、「早朝および保育後の預かり保育は、保護者にとっても有用である」については「そう思う」「大体そう思う」を合わせて97.5%、数値としては高い値を示している。
自己評価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今期も同様に保護者支援としては有用であることが数値からわかる。また、大多数の子どもが喜んで参加していることもわかる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き担当教員と一人一人の様子についても共有し、連携を密に図り、安心して参加できるように支援していくことが必要である。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳児も早朝から預かり保育が利用されている。保護者の就労が年々増加してきているのがわかる。社会状況が変わり大変だが引き続き子どもが安心できる場になるようお願いしたい。

(4) 子育ての支援に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児クラスと在園児クラスとの交流の機会をもち、園の教育への理解や発信につなげる。 ・異学年の交流を大切に、安心して過ごしたり、刺激をもらったりしながら生活や遊びが充実できるようにする。 ・保護者の子育てに対する不安や悩みなどを丁寧に受け止め、共に具体策を考え、保護者の安心につなげる。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援事業への登録、参加人数の推移。 ・子育て支援の取り組みの回数や参加人数、教育相談件数。 ・保護者の意見。

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録者、参加人数は格段に減少している。 ・新たなイベントを開催し、本園の子育て支援の取り組みに関心をもってもらえるようにした。
--	--

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 登録者は減少しているが、参加している保護者にとっては交流の場となり、子どもにとっても家庭以外の人や遊具と出会う新たな環境になっている。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月開催の社会福祉協議会による子育て相談、親子の取り組みを継続していく。 登録者の参加のしやすさを考え、たまご組の開催曜日を減らさずに、プレひよこ組の開催日を別に設定した。 開催日カレンダーをSNSに掲載するだけでなく家庭で手元に置いて見てもらえるよう配布していくようにする
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て支援事業への登録、参加人数の推移。 子育て支援の取り組みの回数や参加人数、教育相談件数。 保護者の意見
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 登録者が減少していると聞いているので、ポスターの掲示やチラシの配布など協力できることをしていきたい。

最終評価

	<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 登録者が若干増加した。 冬になると寒さや積雪などの天候、風邪の流行などの要因からか参加者は減少していた。 イベントのある日は若干ではあるが出席者が増加していた。
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全な遊び場を提供しながら、子どもを通しての親の交流などができる場となっていた。 地域に周知できているのか発信が課題である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は外部講師によるイベントを開催し、好評であった。次年度も開催していきたい。 インスタグラムを見てという問い合わせがあった。引き続きホームページ、インスタグラムでの発信は積極的にしていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月の社会福祉協議会の子育て相談日が有効であると聞いている。左京はぐくみだよりで引き続き発信してほしい。 地域にもっと周知する方法を検討する必要がある。

（5）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 岩倉地域自然ボランティアに地域の生き物、植栽について教えてもらったり、畑の先生に栽培物の植え方や育て方を教えてもらったりすることを通して、自然に関心をもてるようにするとともに
--

に、地域の方とつながる喜びを感じられるようにする。

- ・自治連、運協と連携し、地域にも園の教育について発信する機会をもつ。
- ・お茶会、地域行事への参加、子育て支援の取組等で地域の方のお力を頂き充実を図る。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・地域との交流の内容や回数。運営協議会理事、PTA、地域の方の意見
- ・京都岩倉自然学習ボランティアの先生による教育環境についての助言、取り組みの充実と、子ども、保護者の関心度や変容、研究の充実。
- ・アンケート項目「学校運営協議会 どんぐりーず」と参画する行事は子どもたちにとって良い経験となっている」「学校運営協議会 どんぐりーず」に子どもたちも親しみをもっている。」など

中間評価

各種指標結果

- ・岩倉自然学習ボランティアの方による自然体験は継続できている。生き物の提供、園児対象のミニ講演会、遠足への同行などにより豊かな自然体験ができている。
- ・運営協議会の理事の方によるお茶会の開催も例年同様に開催できた。
- ・自治連と連携し、園の広報に協力していただいている。
- ・PTA主催の活動、PTAの行事への関わりは、昨年度より整理されてきている。

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・運営協議会の理事の方によるお茶会の開催により、子どもたちが伝統文化に触れる体験ができた。
- ・自然ボランティアによる自然体験は園内の研究テーマと関連し、保育の充実につながった。
- ・PTA主催の行事は、保護者に負担のない形で開催できたので、保護者の就労実態等を考慮しながら今後につなげてく必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

- ・自然ボランティアのお力を生かし、保護者向けの講演会も開催し、親子で地域の自然を共有できるようにする。
- ・PTA、おやじの会に関わる行事の在り方を検討する。
- ・自治連には引き続き、園の広報にご協力いただく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・アンケート項目「学校運営協議会 どんぐりーずと参画する行事は子どもたちにとって良い経験となっている」など

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・PTAの在り方が昔とは変わってきている。時代の実態に見合った行事の在り方に変化してきているのですね。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・地域の岩倉自然学習ボランティアの先生には、家庭教育講座や子ども対象の岩倉の自然の話、ミニ講演会をしていただき、今年度も好評であった。学校運営協議会の理事の方のお力で親子お茶会も開催することができた。

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会のお力添えはありがたく、園児に伝統文化に触れる機会をつくることができました。また、自然に特に栽培については、詳しい理事の方にもう少し積極的に関わっていただけるようにする必要があった。 ・PTA、おやじの会の活動は、規模を一部縮小し、行事の運営を教職員中心にし、サポートしていただける部分を縮小してきた。園側とPTAとの詳細なすり合わせが必要だった。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度は自然学習ボランティアだけでなく栽培物についてもお力をいただけるようにはたらしかけたい。 ・PTAの園行事のサポートについては、園側の動きを明確にし内容や動きを丁寧に伝えていく必要がある。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の理事としての協力は今後もできるだけしていくので、遠慮せずに連絡していただきたい。

（6）教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の心身の健康の保持増進を図り、教育を充実するための働き方改革に対する教職員の更なる意識改革を図る。 ・教職員の業務内容・勤務時間を意識し、改善点を明らかにし、教職員間、校務支援員との連携を密に図り、働き方改革を推進する。 ・課題の洗い出しと共に、働きがいのある職場環境を整えていく。
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の精選・効率化、ペーパーレス化、行事の内容や業務の分担の見直しと効率化、超過勤務の短縮。 ・電話対応時間を18時までとする。 ・水曜日をノー残業デーに設定し、実現する。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の超過勤務時間の実態把握や年休取得率。 ・校務支援員を初めとする教職員間の連携により改善できた業務内容。

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援員が本園での経験年数が長いいためか、自ら見通しを動いていただくので、教員の負担が軽減されている。 ・超過勤務時間は少ない。 ・会議のペーパーレス化により資料作成、修正等の時間が短縮され、効率が上がっている。 	
自己	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援員とともに全教員が協力して、より業務の効率化を推進し、健全な職場環境を維持し

評価	ていく必要がある。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の取り組み方を継続しより効率化することで、教職員も心身とも良好な状態で子どもと向き合えるようにしていく。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○超過勤務の時間数 ○年休取得日数
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革が推進されてから、改善されてきているのが目に見えてきているのではないかと引き続き取り組んでほしい。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期は大きな行事が多く、行事に向かっていく過程で超過勤務がやや増加していく傾向があった。 ・年休取得は冬季休業中や個人差があるが季節柄体調不良による取得もあった。
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援員や非常勤講師の活躍により、教員の業務負担はかなり軽減されている。 ・管理職の業務軽減は困難である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで以上に見通しをもちながら業務分担を計画的にしてい更なる改革を推進していく必要がある。 ・会議の効率化は引き続き進めていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の働き方改革により、教員自身がゆとりをもって子どもに向き合うことが大切になってくる。そのうえで教育も充実していくのではないかと。さらなる支援策があれば協力したい。